

### 一口法話

老いゆく身でありながら  
老いないといふことだ。

何よりも健康は第一の富である



**老人六歌仙**  
江戸時代の僧、仙涯の作とされる、老人をいましめる歌。初めは自然とやってくる老いの具体的なものから入り、終わりには生き方、生活態度にまで細かく言及している。

### 老人六歌仙

- 一、しわがよる ホクログができる  
腰まがる 頭ははげる ひげ白くなる
- 二、手がふるう 足はよるめく 歯はぬける  
耳はきこえず 目はうすくなる
- 三、身にそうは スキン えりまき 杖  
眼鏡 湯たんぼ 温石 しびん 孫の手
- 四、聞きたがる 死にたくなくなる  
さみしがる 心はまがる 欲ふかくなる
- 五、くどくなる 気短かになる ぐちに  
なる でしゃばりたがる 世話やきたがる
- 六、またしても同じ話に子をほめる  
達者自慢に 人はいやがる (仙崖)

権信徒各位  
平成18年8月吉日

## 法話のお知らせ

講師 高野山真言宗本山布教師 小山爾庵師  
明石市 薬師院 御住職

心静かなひとときを過ごしてみませんか、きっと命の長福がで  
きると思われます。皆さんでゆったりお出かけください。

問い合わせ先: 584-0302 寿楽院  
開催日: 平成18年9月2日(土)  
開催時間: 午前10時00分  
寿楽院本堂にて開催いたします

主催 高野山真言宗埼玉支所

法話を聞きましょう



今年も見事に蓮が咲きました 06/7/12 撮影

## 空海の言葉 シリーズ

ふうじょくき やす りょうじんあ がた  
**風燭滅え易く、良辰遇い難し**

※命は風前のともじり、  
よい星に遇うことは難しい

風のある日にお墓参りに行き、墓前で二本のローソクをつけます。手で囲って風をよけ、ようやくついた炎の片方は一陣の風でふっと消えました。もう一本は、風が吹くたびにあつちへゆらり、こつちへゆらりと、いまにも消えそうですが、なかなか消えません。こんなとき、ふと考えるのです。

人間の寿命もこんなものだろうか？ 健康と寿命は別だ、というけれど、ほんとうにそうだ。病氣ひとつしたことがない頑健な若い男が、心不全で一夜のうちにコロリと死ぬ。そうかと思えば、若いときから肺結核に冒され、そのうえ痔で苦しみ、長い間病床に在るのに、九十五歳まで長生きした人もいる。死神という神は、ローソクの炎をゆらす風のような存在か？

と。弘法さんもつくづくそう思われたに相違ないのです。そうでなければ、「風のために燭台の火は滅え易い」などと、いわれるはずがありません。しかも続いて、「良辰遇い難し」とおっしゃっています。

良辰とはよい星のことです。

たしかに人がこの世に生を受けた瞬間、そのときの太陽や月の位置、北極星や北斗七星の位置がその人に影響している。悪い星の下に生まれた人は一生悪い運勢がついて回るのか、という、そうではありません。太陽も月も星も、一刻もじつとじていません。「空海のことば」より

